

持続可能な マリンレジャーのための 事例集

概要版

いつまでもサンゴのある海を楽しむために。

2025年度版

沖縄県環境部自然保護課

— 参考情報 —

○県知事認定保全利用協定(県公認サポートデスク)
<https://sustainable-tourism.okinawa/>



○サンゴプラポ(サンゴ礁情報プラットフォーム)
<https://okinawa-sango-info.com/>



○オニヒトデドット沖縄(沖縄県オニヒトデ対策ポータルサイト)
<https://onihitode.okinawa/>



○「沖縄県プラスチック問題の取組に関する指針」の策定について
～プラごみを減らして守れ!うちなー美ら海～
<https://reduce-plastic.okinawa/>



サンゴ礁保全活動プログラムシリーズ①

「持続可能なマリンレジャーのための事例集」2025年度版(令和8年3月発行)

沖縄県環境部自然保護課 〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2 Tel:098-866-2243 Email:aa039004@pref.okinawa.lg.jp
請負 一般財団法人沖縄県環境科学センター

1人の小さな行動が 大きな力となる。

沖縄の海に広がる色とりどりのサンゴ礁は、豊かな漁場や観光資源として、私たちにかけがえのない恵みをもたらしてくれる宝物です。

しかし今、海水温の上昇や水質悪化の影響などが重なり、沖縄のサンゴ礁は危機に瀕しています。

また、人気のダイビング・スノーケリングポイントでの過剰利用や不適切な観光利用によって、サンゴや生物に影響をもたらす事例も見られています。

このような状況の中、世界中で、自然を守りながら楽しむ「サステナブル・ツーリズム」への転換が始まっています。

沖縄でも、サンゴ礁・環境に配慮したダイビングルールやアンカーリングの影響を回避できる係留ブイの設置など、各地で利用と保全を両立する取り組みが行われています。

各地のさまざまな実践例を紹介する本事例集が、これから活動をはじめ方やさらなる取組みを目指す方のヒントになることを願っています。

CONTENTS

- | | | | |
|----|---|----|---------------------------------|
| 01 | はじめに | 11 | [取組事例 01] 石西礁湖自然再生協議会 |
| | | | [取組事例 02] 宮古サステナブルツーリズム連絡会 |
| 03 | サンゴ礁・マリンレジャーを取り巻く問題と影響 | 12 | [取組事例 03] 平安座島サンゴ礁保全再生活動地域協議会 |
| | | | [取組事例 04] 伊良部島・下地島サンゴ礁保全再生地域協議会 |
| 05 | サンゴ礁を未来へ託す私たちにできること | | |
| 06 | 世界と国内での取り組み事例 | 13 | [取組事例 05] チーム美らサンゴ |
| | | | [取組事例 06] 沖縄県ダイビング事業者団体連合会 |
| 07 | サンゴを守る地域団体の取り組み
先行地域ケーススタディ(係留ブイ、国際ガイドライン) | 14 | [取組事例 07] 八重山ダイビング協会 |
| | ・宮古島美ら海連絡協議会 | | [取組事例 08] 竹富町ダイビング組合 |
| | ・恩納村マリンレジャー協会 | | |
| 09 | 先行地域ケーススタディ(国立公園の保全、保全利用協定) | 15 | [取組事例 09] 石垣島アウトフィッターユニオン |
| | ・座間味ダイビング協会 | | [取組事例 10] 北谷町海域利用事業所協会の |
| | ・謝名瀬地区保全利用協定 締結事業者団体 | 16 | [取組事例 11] 伊江島ダイビング協会 |
| | | | [取組事例 12] 本部町ダイビング協会 |
| | | 17 | [取組事例 13] 渡嘉敷ダイビング協会 |
| | | | [取組事例 14] あか・げるまダイビング協会 |
| | | 18 | 沖縄県マリンレジャー関連団体リスト |

サンゴ礁で起きている問題

気候変動の影響

(白化現象など)

サンゴの大量死をもたらす異常高水温によるサンゴの白化現象は、近年、発生頻度が増加。国内最大のサンゴ礁である石西礁湖などでは、回復が進まない状況に陥っている。

海面水位の変化

2100年までに

最大 **1.01 m** 上昇

海水温の上昇により

石西礁湖の白化現象

全体 **92.8 %**

※2022年9月の状況

サンゴ礁生態系の劣化が進行

海洋ゴミ

(マイクロプラスチックなど)

海洋ゴミ、特に65%以上を占めるプラスチックは自然分解されず長期間海に残留。特に、微小なマイクロプラスチックはサンゴ内に取り込まれて影響を及ぼすという報告もある。



陸域からの赤土等の流出

開発地や農地から雨により赤土が海に流出するとサンゴの呼吸や光合成を阻害。生活排水等で流出した栄養塩もサンゴの成長を阻害。陸からの影響を減らす取り組みが必要。



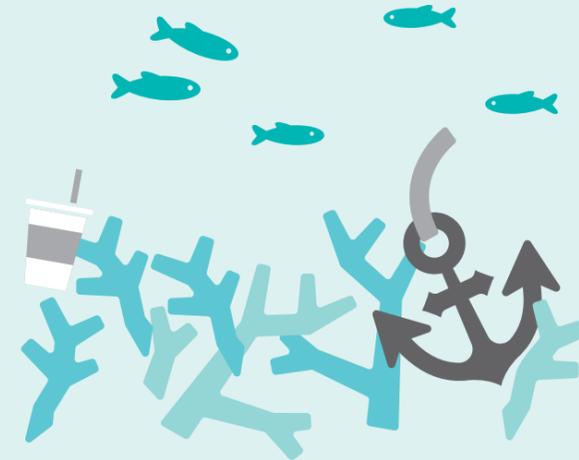
サンゴ食害生物の影響

サンゴを好んで食べるオニヒトデは、大量発生すると、広域的にサンゴの大量死をもたらす。サンゴを食べる小型巻貝も局部的に影響を及ぼす。



関連キーワード

- レジャースタイルの多様化
- サステイナブル、エシカルツーリズム
- オーバーツーリズムへの対応
- 海に関わる関係者の地域特性
- 事業者の組織化などの地域差



問題と影響

サンゴ礁・マリンレジャーを取り巻く

沖縄の海を彩るサンゴ礁は、多様な生き物を育むゆりかごであり、私たちが楽しむマリンレジャーを支える大切な存在です。しかし、温暖化や人為的な影響で危機に直面しています。

マリンレジャーがサンゴ礁に与える影響

接触による影響

ダイビングやシュノーケリングでは、特に浅瀬(リーフ内)において、混雑時や初心者の遊泳時にはサンゴへの接触・踏み付けが起りやすく、サンゴを損傷する恐れがある。



アンカーリングによる影響

サンゴの多い岩盤上に、やみくもにアンカーリングするとサンゴを損傷させる恐れがある。特に、1日に何十隻も訪れるような利用が多いポイントでは、影響は大きくなる。



日焼け止めによる影響

日焼け止めに含まれる化学物質は、サンゴへの悪影響を及ぼすことが指摘され、一部の成分の使用が禁止されている国もあるが、サンゴへの影響について現時点では不明なことが多い。



餌付けによる影響

餌付けや撒餌は、魚の食性や行動を変えたり、一部の魚類だけが増えて種の多様性を損なう恐れがある。このようにサンゴ礁生態系のバランスを乱す恐れが指摘されている。



沖縄県におけるマリンレジャーの現状

CASE 01 レジャースタイル多様化、新たなツーリズムの動向

海水浴やダイビング・シュノーケルといった従来のレジャーに加え、シーカヤック、パラセーリング、ジェットスキー、SUPなどアクティビティのスタイルが多様化。サステイナブル・エシカルツーリズムといった持続可能な観光を主流化させることは、県として重要課題。

CASE 02 オーバーツーリズムへの対応

多くのマリンレジャー客が訪れ、過剰利用される場所では、サンゴの踏みつけや接触、船のアンカーリングの影響などでサンゴが傷つくことが懸念。本来の生態系を乱す魚への餌付けも問題。

CASE 03 海に関わる関係者の地域特性(文化、環境)

マリンレジャー事業者と漁業者が明瞭に分かれる地域もあれば、多くが兼業している地域もあり、それぞれの関係性には地域差がある。海洋環境も地形条件などの地域特性があり、ダイビングポイントの特徴も異なる。これらの地域特性に応じて活動内容も様々である。

CASE 04 マリンレジャー事業者の組織化や調整状況の地域差

ダイビングが盛んに行われる地域ではダイビング団体などが組織されている。しかし、ダイビング団体の加入割合は地域差が大きく、事業者数が100社以上あるような地域では、事業者間および漁協など海事関係者との調整にあたり、課題を抱える地域もみられる。

GO ACTION

世界と国内での取り組み事例

2030年までに生物多様性の損失を止め、回復を目指す国際目標「ネイチャーポジティブ」達成に向け、国内外では様々な施策が行われてます。世界、国、県それぞれの取り組み事例を紹介します。

世界の取り組み

昆明・モンリオール生物多様性枠組

国際サンゴ礁イニシアティブは、汚染管理、知識の共有など6つの具体的な行動指針を提言。国際NGOは、サンゴに優しいダイビング・スノーケルの国際的ガイドラインの普及を推進。

GreenFins



日本国内の取り組み

サンゴ礁生態系保全行動計画

環境省策定「サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030」では、サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムを推進。モニタリングサイト1000では沖縄県内15サイトで調査を継続。

サンゴ礁保全行動計画



モニタリングサイト1000



調査状況(スポットチェック調査)

沖縄県の取り組み

サンゴ礁保全地域の拡大 積極的なサンゴ礁の保全・再生

沖縄県では、県内の優れた自然の風景地を守り、適切に活用していくための取り組みとして、環境省が管理する国立公園、沖縄県が管理する国定公園などがある。ほかには、保全と利用のバランスを図ることを目的としたエコツーリズム推進全体構想策定地域や、沖縄県条例で認定される保全利用協定締結地域がある。また、積極的な保全・再生のため、沖縄県として様々な事業が展開されている。

海域が含まれる県内の保全区

- 自然環境保全地域(崎山湾・網取湾) ○国立公園(慶良間諸島・西表石垣)
- 国定公園(沖縄海岸・沖縄戦跡) ○県立自然公園(久米・伊良部・波名喜・多良間)
- エコツーリズム推進全体構想(慶良間諸島・西表島)

沖縄県保全利用協定締結地域(海域を主体とした地域)

- 謝名瀬地区(宜野湾市) ○保良クバクンダイ鍾乳洞(宮古島市)
- 白保サンゴ礁地区(石垣市)

沖縄県の取り組み一覧

沖縄県保全利用協定



「保全」と「利用」双方のバランスを取りながら、観光による持続可能な地域づくりを図ることを目的として、条例に基づき、事業者間の自主ルールを認定する制度。

赤土等流出防止対策



沖縄県はH25年に策定した赤土等流出防止計画を見直すために、これまでの対策の効果検証を行い、SDGs等の視点も反映された第2次の基本計画がR4年度に策定された。

サンゴ礁保全再生事業



白化現象やオニヒトデの影響に対し、サンゴ種苗生産技術の開発、サンゴ礁の健全度モニタリング、オニヒトデ大量発生時の予測手法の開発、地域主体の保全・再生活動を支援。

マリネレジャー関連事業



マリネレジャーにおけるオーバーツーリズムや不適切な利用によるサンゴ礁への影響が懸念。マリネレジャーによるサンゴへの影響、係留ブイのモデル事業、地域団体が取り組む事例をとりまとめた事例集を作成した。(本事例集はこの事業で作成)

WHAT WE CAN DO

サンゴ礁を未来へ残すために マリネレジャーで 私たちができること

マリネレジャーによるサンゴへの影響を減らすために、マリネレジャー事業者や一般の利用客は、どのようなことができるでしょうか？
影響ごとに具体策を紹介します。

Q1 サンゴ礁への接触やゴミによる 影響を減らすには？

事業者から利用客への啓発

サンゴへ接触しないように、利用客への事前説明を徹底したり、浮力コントロールスキルの向上や指導が重要です。ゴミを捨てないことはもちろんのこと、海岸清掃等に支援したり参加しましょう。



海岸清掃等への支援、参加

Q2 アンカーリングによる 影響を減らすには？

アンカーリング時に配慮しよう

係留ブイの設置・運用は、最も有効な方策であり、関係者間での調整による導入が推奨されます。次善策としては、サンゴが少ないことを確認してアンカーリングするなどの配慮が有効です。



サンゴの多い岩へアンカーを落とさない



岩礁に固定された係留ブイを利用
※設置には漁協等の関係者との調整が必要です。

Q3 日焼け止めによる 影響を減らすには？

サンゴにも人にもやさしい日焼け対策を

日焼け止めに含まれる化学物質のサンゴへの影響は、まだ不明なことも多く、正しい情報を理解することが重要です。また、日差しが強い沖縄では自分自身の肌を守ることも大切です。健康を守りながら、サンゴへのリスク(日焼け止めの海への排出量)を減らす工夫の一例として、ラッシュガード等の肌を露出しない衣服や帽子などの着用が推奨されます。



Q4 餌付けによる 影響を減らすには？

人間が安易に餌付けをしない 生き物たちを優しく見守ろう

サンゴ礁保全・環境に配慮したダイビングやシュノーケリングの国際的なガイドライン(GreenFins)では、餌付け行為が禁止事項の1つです。自然の状態で、生き物たちを優しく見守りましょう。



先行地域ケーススタディ

沖縄県において、マリンレジャーにおけるサンゴ礁への配慮
保全活動が先行的に進められている事例を紹介します。

CASE 01 宮古諸島で進められている 係留ブイ利用の枠組み

一般社団法人宮古島美ら海連絡協議会

宮古島では、漁業者の3つの漁協と5つのダイビング事業者団体で構成された宮古島美ら海連絡協議会が組織されています。定期的に、海面の調和的利用の調整会議が開催され、係留ブイの設置場所や設置・維持管理の費用負担などについて建設的な調整行われています。設置・管理主体は、ダイビング事業者(団体)であり、日々利用しながら、定期的な維持管理も行っています。

係留ブイについて … 係留ブイは、岩礁の地形を利用してロープを固定したものであり、航行船舶への影響を避けるため、水中にあります。

持続的な運用の仕組み … 同協議会では、ダイビング客から海洋環境保全や水産振興等に資する協力金として定額を任意に徴収して基金化し、その一部を係留ブイの設置・維持管理費用に充てる持続的な運用を行っています。



活動内容

- 宮古島の海洋環境保全(ダイビング船の係留ブイ設置事業/オニヒトデ監視・駆除事業/海底清掃事業)
- ダイビング事業者への安全管理講習会/ダイビング関連イベントの開催・情報発信
- 水産業の振興、水産資源の保護培養(貝類及び稚魚等の放流)
- 海面の調和的利用の調整会議の開催
- 八重干瀬を守るための適正利用ルールの策定・遵守
- マリンレジャー利用者への「美ら海連絡協力金」の協力依頼、資金管理

取り組みにより低減する環境への影響



団体概要

宮古島市周辺海域の利用調整および海洋環境保全、マリンレジャーの振興を目的に、様々な活動に取り組んでいます。1990年代にダイビング事業者と漁業者との海域利用の調整を目的に、2007年に発足し、2022年に一般社団法人化しました



出典: 恩納村, <https://www.vill.onna.okinawa.jp/politics/1683856059/>

活動内容

- 係留ブイ(水面ブイ): 漁業者と調整して利用(維持管理は漁協主体)
- サンゴ食巻貝の監視・駆除 ○水中の清掃活動
- サンゴや生物のモニタリング(リーフチェック等)
- 環境配慮ルールづくり・運用: GreenFinsの推奨、青の洞窟の利用ルールの検討

取り組みにより低減する環境への影響



<その他のサンゴ保全活動>
・サンゴ礁モニタリング
・サンゴ食害生物の監視等

取り組みにより低減する環境への影響

サンゴ礁への配慮に関する内容として、5つの影響低減項目アイコンのうち該当するものを記載。



CASE 02 恩納村で進められている GreenFinsの普及

一般社団法人恩納村マリンレジャー協会

GreenFinsは、運営主体であるリーフワールド財団が養成・認定した「アセサー」と呼ばれる審査員が、認定を希望するマリンレジャー事業者が同ガイドラインに基づいた環境配慮の取り組みを評価し、その評価結果に応じてランク付けして認定する仕組みです。地域全体としてGreenFins認定の普及が進むことを目指しており、認定にかかる費用は、行政機関が負担しているため、事業者に対して認定料などの費用負担は生じません。

GreenFins … 「世界一サンゴと人にやさしい村宣言」を掲げている恩納村が国内ではじめて自治体として導入し、2026年2月末時点で、19事業者がGreenFinsの認定を受けています。

地域団体 … 恩納村マリンレジャー協会では、GreenFinsの認定取得を推進し、加盟事業者や一般ダイバーに対して普及啓発を行っています。また、ガイドラインに沿った活動として、海中ゴミ清掃やサンゴ礁モニタリング(リーフチェック)なども継続的に実施しています。

団体概要

地域との共存共栄を目指し、村、漁業協同組合、観光協会等と連携して、マリン事業の環境整備や環境保全活動を実施しています。漁協や村との連携を組織的に進めるため、2021年10月に一般社団法人化し、自然環境の保全と育成を通して、「恩納ブランド」の確立に向けた「サンゴの村宣言」プロジェクトに取り組んでいます。

Let's Action! 地域発のチャレンジ

CASE 01 地域みんなで取り組む 係留ブイの利用

アンカーリングによるサンゴへの影響を減らすために最も有効な方法は、海底の岩などにロープ等で固定されたダイビング船等の「係留ブイ」を利用することです。係留ブイを設置するためには、地域のダイビング団体と漁業協同組合が調整を図る必要があります。設置場所やブイのタイプ、設置・維持管理の費用負担などを話し合い、地域全体で取り組むことが重要です。

CASE 02 サンゴに優しいダイビング等の ガイドラインの普及

国際NGOのリーフ・ワールド財団は、サンゴ礁生態系に配慮した持続可能なダイビング・スノーケルの国際的なガイドラインである「Green Fins(グリーンフィンズ)」を通して、一般のダイバーやマリンレジャー事業者にサンゴ礁保全の教育と実践支援を行っています。国内ではじめて導入された恩納村では、村内での普及が進んでいます。

サンゴ礁を守る 地域団体の取り組み

沖縄の海を彩るサンゴ礁は、多様な生き物を育むゆりかごであり、私たちが楽しむマリンレジャーを支える大切な存在です。しかし、温暖化や人為的な影響で危機に直面しています。

先行地域ケーススタディ

沖縄県において、マリンレジャーにおけるサンゴ礁への配慮
保全活動が先行的に進められている事例を紹介します。

CASE 03 漁協と連携した多彩な保全活動で 座間味のサンゴを守る団体

一般社団法人座間味ダイビング協会

座間味ダイビング協会は、21ショップが連携し、全域が国立公園に指定されている座間味のサンゴ礁を守りながら利用しています。ダイビング事業者と漁業協同組合は、円滑な海面利用調整を図っており、サンゴ礁保全という共通目標のために、係留ブイ、海中ゴミの清掃、サンゴ礁モニタリング、サンゴ食害生物の監視・駆除など多彩な保全活動を連携実施しています。

係留ブイについて … 係留ブイは、場所によりタイプ(水面・水中)が異なり、新規設置のブイには、航行船舶への周知・安全対策のため、点滅灯も付けています。

持続的な運用の仕組み … 協会の各ショップが持ち回りで1週間ずつ担当し、協会内に声掛けをして保全活動を実施しています。ハイシーズンは頻度を減らし、ローシーズンは頻度は高めます。このような公平で、柔軟な仕組みにより、持続的に活動を行っています。

団体概要

1998年の大規模白化後のオニヒトデの大量発生をきっかけに、2002年に設立され、2018年には一般社団法人に移行しました。設立後20年以上、座間味の海の保全活動を推進しています。



活動内容

- 係留ブイ (水面及び水中)
- オニヒトデ・サンゴ食害生物の監視・駆除 (発生状況により頻度が異なる)
- 海岸・水中清掃 (台風後や、大きな流れ網などを確認した際などに実施)
- サンゴ礁モニタリング: リーフチェック3箇所程度 (コロナ後は実施頻度が低い)

取り組みにより低減する環境への影響



活動内容

- 船の係留時は、アンカーリングせずダイバーが水底の岩をロープで縛る
- ツアー催行時にサンゴの上を通らない(ダイバーのサンゴ接触防止)
- オニヒトデ、サンゴ食害生物の監視・駆除
- モニタリング、調査結果についての協議
- 河口部や海岸部などの清掃活動
- 安全管理や適正利用ルールの策定

取り組みにより低減する環境への影響



取り組みにより低減する環境への影響

サンゴ礁への配慮に関する内容として、5つの影響低減項目アイコンのうち該当するものを記載。



CASE 04 「県認定：謝名瀬の保全ルール」 を守る事業者たちの協定

謝名瀬地区保全利用協定 締結事業者団体

宜野湾沖に広がる豊かなサンゴ礁「謝名瀬」。同じ思いを持つダイビング事業者が自主的に守る謝名瀬の利用ルールは、沖縄県保全利用協定として認定されています。サンゴ礁に配慮した持続的な利用を進め、定期的なサンゴ礁のモニタリング、サンゴ食害生物の監視・駆除も行っています。

沖縄県保全利用協定について … 沖縄県条例である『保全利用協定』は、特定地区の観光資源を対象として、事業者グループが自主的に定めた利用ルールを認定し、ルールを守る事業者間で協定を結ぶ制度です。

内容とメリット … 県の認定により対外的な信頼性が高まることで、漁業協同組合や地域関係者との調整・協力が進みやすくなります。今後は、持続可能な観光の観点で、地域のブランディングにもつながることが期待されます。

団体概要

2013年頃のオニヒトデ大量発生を機に、自主的な取り組みを開始し、2016年に保全利用協定に初回認定を受けました。その後、再認定と更新を行い、協定締結後、約10年間サンゴ礁保全の取り組みを行っています。

Let's Action! 地域発のチャレンジ

CASE 03 世界に誇るケラマブルーを守る島々 地域みんなで取り組む保全活動

全域が国立公園に指定されている慶良間諸島では、島ごとに地域特性があり、ダイビング事業者が漁業協同組合の組合員を兼ねているケースもあります。サンゴ礁保全という共通目標のために、ダイビング事業者と漁業者が連携・協力し、様々な保全活動が進められました。係留ブイ、海中ゴミの清掃、サンゴ礁モニタリング、サンゴ食害生物の監視・駆除など多彩な保全活動が根付いています。

CASE 04 保全と利用の両立へ 県条例に認定された事業者の連携

沖縄県では、持続可能な観光を目的として、保全と利用のバランスを図るための事業者グループの自主ルールを認定する制度(保全利用協定)があります。海域でのマリンレジャーを対象とした地域団体は、県内で3団体あります(令和7年度時点)。自分たちが利用している海域は、自分たちで保全し、見守っていく。同じ思いを持った事業者たちが連携した取り組みです。

サンゴ礁を守る 地域団体の取り組み

地域に根差したマリンレジャーを進めるためダイビング事業者などが協力しています。みんなで協力すれば、できることも増える。マリンレジャーを楽しむ一人一人が彼らの活動を知り、応援することが重要です。さらに協力の輪を広げ、持続可能なマリンレジャーを進めましょう。

地域で取り組むサンゴ礁保全活動の事例

事例
03



取り組みにより低減する環境への影響



<その他のサンゴ保全活動>
・サンゴ礁モニタリング
・サンゴ養殖、普及啓発

関係者の合意形成を図るためのポイント

漁業協同組合、行政、学校、ダイビング等事業者、自治会など多様な関係者が参画するにあたり、「地域づくり」を行う地元団体が事務局を担うことで、円滑な調整が図られている。SNS等で活動内容を継続的に発信し、島民理解と参画を促進している。

平安座島サンゴ礁保全再生活動地域協議会

多様性豊かなうるま（サンゴの海）を守るため、産学官が連携した地域主体の保全活動団体

与那城町漁業協同組合、うるま市、平安座自治会、ダイビング等事業者などで構成。平安座島周辺海域のサンゴ礁保全再生を目指し、地域が主体となった保全活動として、研究機関とも連携しながら、サンゴ養殖、モニタリング、環境教育などに2023年から取り組んでいます。

設立経緯

漁業者によるサンゴ養殖活動の開始をきっかけとして、地域ぐるみで保全再生活動を開始した。平安座島周辺の豊かなサンゴ礁を活かした観光および教育を展開することで、地域経済を活性化を目指しています。

主な実施内容

- サンゴ礁および自然観察会、環境学習(小中学校との連携)
- 一般ダイバー向けモニターツアー(サンゴ観察会など)
- 勉強会&ワークショップ(漁業者・マリン事業者向け)
- サンゴ養殖および管理(漁業者、ダイビング事業者が連携)
- 調査研究への協力(OISTコーラルプロジェクト)
- SNS発信による広報(イベント告知、広報チラシなど)
- 地域協議会の開催(協議会委員との方針共有・報告)

伊良部島・下地島サンゴ礁保全再生地域協議会

サンゴ礁の保全・再生を通じて伊良部島・下地島の豊かな海を守り、未来へつなぐ地域団体

漁業者、農業者(製糖工場)、マリンレジャー事業者、学校、行政、地元企業、県外企業など幅広い関係者で構成された協議会。サンゴ養殖、環境教育、啓発活動を連携して展開し、サステイナブルツーリズムの浸透、伊良部島と下地島の環境保全を目指しています。

設立経緯

近年、観光開発が著しい宮古島市において、地域産業(漁業、農業、観光業)が島のために協議できる枠組みが必要であり、2024年に協議会として組織化しました。

主な実施内容

- サンゴ養殖と管理(サンゴ種苗の観察、研究機関と連携など)
- 環境教育活動(小中学校との連携、サンゴ苗づくり体験など)
- 普及啓発イベント出展(佐良浜漁港・バヤオの日まつりなど)
- サステイナブルツーリズム(企業と連携したビーチクリーン、赤土対策、係留ブイ設置など)
- 地域への広報(地元紙やテレビ、商工会やSNS等による周知)
- 地域協議会の開催(活動の計画策定、活動報告など)
- 環境啓発商品の開発(養殖サンゴ由来成分のボトル制作)



事例
04

取り組みにより低減する環境への影響



<その他のサンゴ保全活動>
・サンゴ礁モニタリング
・サンゴ養殖、普及啓発

関係者の合意形成を図るためのポイント

異なる立場の関係者が参加しており、協議会が主役になるのではなく、地域の力を繋いで活かす「要」の役割を果たすよう務めている。また、協議会では各委員の活動の進捗を定期的に報告・共有し、相互理解を深めることの大切に行っている。

地域で取り組むサンゴ礁保全活動の事例

事例
01



取り組みにより低減する環境への影響



<その他のサンゴ保全活動>
・サンゴ食害生物の監視等
・サンゴ礁モニタリング

関係者の合意形成を図るためのポイント

- 委員は立場の違いを超えてお互いの意見を尊重し、建設的に議論する。
- 会議中は、学術的・専門的な用語は理解しやすい表現に言い換えて、意見を述べるように務める。

宮古島サステイナブルツーリズム連絡会 事業者団体、漁協、行政、警察等の多機関連携で持続的な観光を進める宮古圏の組織

環境保全と地域経済の調和を目指し、宮古島の持続可能な観光を推進するために設立された団体。島の統一ルール「宮古島サステイナブルツーリズムガイドライン」の策定、運用、推進を実施しています。

設立経緯

「宮古島観光の安全安心の向上」「自然環境の保全・再生と観光の両立実現」「島と観光の持続性向上」を目的に、設立されました。

主な実施内容

- サステイナブルツーリズムガイドラインの推進・普及
- 認証制度の実施:ガイドラインを遵守している事業者を認証、連絡会のホームページで公開
- 連絡会の実施:情報共有のほか、今後の取り組みについての議論
- ガイドラインマリン認証プレスSNS運用:
認証店のツアー情報や、ツアーフィールド状況などを紹介
- ガイドライン認証店会議:
認証店と安全、環境に関する意見交換
- キャンペーン、PR活動の実施

石西礁湖自然再生協議会

国立公園指定当時のサンゴ礁を取り戻すため、地域と行政が一体で進める自然再生協議会

自然再生推進法に基づき設立された石西礁湖自然再生協議会は、2037年までの長期目標を軸に、5年ごとの行動計画の策定にあたる議論や、各主体による取り組みを報告・情報交換する協議会です。

設立経緯

「かつてのすばらしい石西礁湖のサンゴ礁を取り戻したい」という熱い思いを持った、地元住民、市民団体、漁業や観光関係の団体、研究者、行政機関など多様な主体が集まり、2006年2月に設立されました。

主な実施内容

- 持続可能な観光利用ガイドラインづくり(多機関連携)
※観光利用によるサンゴ礁への負荷低減を含む
- 海岸清掃、陸域からの排水対策(各委員の活動)
- 石西礁湖での広範囲の地点でのサンゴ礁生態系の詳細モニタリング調査(環境省)
- 広域的、継続的なオニヒトデの監視・駆除(重点保全エリア)
- 稚ヒトデモニタリング手法の普及啓発(環境省)

事例
02



取り組みにより低減する環境への影響



関係者の合意形成を図るためのポイント

ルール作りや連絡会に関わる議論などにおいて事業者、行政だけでなく幅広い立場の人が集まり、関係する全ての人々が会話できるような場をセッティングして話し合うことを大事に行っている。

地域で取り組むサンゴ礁保全活動の事例

事例
07



取り組みにより低減する環境への影響



<その他>
・海洋生物(マンタ)の保全

関係者の合意形成を図るためのポイント

協会への加入率を高めるために、環境配慮等の普及啓発映像の効果的な発信、協会ホームページの高質化などより、協会のブランド力を高めていく。

一般社団法人 八重山ダイビング協会 安心で楽しい海の体験を。 日々の安全と石垣島の海を守る 審査制のダイビング協会

主に石垣島にあるダイビング・スノーケリング業者が加盟する事業者団体。事業者が多い石垣島において安全対策や環境保護など一定基準を満たす事業者が加盟できます。マンタ保全のため、川平石崎マンタポイントの利用ルールも策定しています。

設立経緯

以前より、協会として活動していましたが、2021年に一般社団法人化されました。

主な実施内容

- 川平石崎マンタポイントのルール策定(海洋生物への影響低減)マンタへのストレスを軽減し、持続的なポイント保全のため、適正な利用ルールを策定(一度に5隻までが停船可能、適正なアンカーリング方法、進入・離脱方法、観察マナーのブリーフィング等)
- 水中の清掃活動
- 定期的な研修会やセミナーの開催

竹富町ダイビング組合 「島のために」自然環境や住民生活に配慮し持続可能な観光の推進に取り組む団体

「島のために」の理念のもと、観光客に島の魅力を伝えつつ、自然環境や地域文化を守りながらサンゴを守る活動に取り組むとともに、事業者間や地域関係者と連携協力を図っています。

設立経緯

自然を守りながら共存し、安心・安全にダイビングを楽しめる環境づくりを目的として、島内のダイビング事業者が集まり自主ルールを検討したことがきっかけとなり設立されました。

主な実施内容

- 下記の自主ルールを策定。海洋環境への影響及び保全対策を実施。
- 禁止事項の設定と周知
(サンゴの損傷、魚類への餌付け、海中生物への接触など)
 - ゴミ流出防止と削減、海中ゴミ清掃(西表財団と連携)
 - アンカーリングによるサンゴへの損傷を抑える配慮
(船上または水中での海底の目視確認の徹底など)
 - 1ガイドあたりの案内客数の上限設定(体験・ファンダイブ)
 - ポイント乱用を防ぐための譲り合い、同時利用は最大3隻。
 - バラス島特有のルールの策定と遵守
(ダイビングポイントで固定ブイを水面に上げるなど)
 - ダイビングポイントでのサンゴ礁及び稚ヒトデモニタリング、サンゴ食巻貝の監視・駆除

事例
08



取り組みにより低減する環境への影響



関係者の合意形成を図るためのポイント

- 西表島内の業者間の調整では、「自然環境があるからこそ客が訪れ、自分たちは利用されてもらっている立場」という共有認識が重要。
- オーバーツーリズムによる住民の不安解消のため、住民の意見を聞く機会を設ける。

地域で取り組むサンゴ礁保全活動の事例

事例
05



取り組みにより低減する環境への影響



<その他のサンゴ保全活動>
・サンゴ植え付け、啓蒙活動等
※植え付け、モニタリングなどは漁協、マリンレジャー事業者と連携実施

関係者の合意形成を図るためのポイント

- 漁協、民間企業、行政、研究者により協働体制を構築し、幹事社制度により公平な意思決定を図っている。
- サンゴ保全が「美ら海」や漁業、観光の持続性につながるという共通のビジョンを共有することで、同じ方向を向いて取り組める基盤が形成されている。

一般社団法人 沖縄県マリンレジャー事業者団体連合会

現場の視点で課題に向き合い 地域の事業者団体が連携して 持続可能な観光を支える組織

沖縄本島、伊江島、宮古島、石垣島、西表島など13のマリンレジャー事業者団体約380社で構成。マリンレジャー産業の現状や課題、問題点、改善策を現場の視点から議会・行政へ届ける一般社団法人です。

設立経緯

マリンレジャー産業の健全な発展と地域に貢献することを目的として、2020年6月に設立されました。

主な実施内容

- 海洋環境保全の持続的な取組
(地域団体連携、行政・関係機関との意見交換、保全ガイドライン策定支援)
- 観光プラットフォーム設立・運営:
(優れた事業者を正当に評価する制度の策定)
- 観光プラットフォーム掲載の選定基準に環境配慮基準を定め、加入団体へ実施を推進。
- 関係者との情報交換・定期的な研修会やセミナーの開催

チーム美らサンゴ

「美ら海を大切に作る心を育む」 行政・地域住民・企業が協働し 活動するサンゴ保全プロジェクト

沖縄県恩納村を拠点に、2004年に発足した市民参加型のサンゴ保全プロジェクトです。サンゴ養殖を行う恩納村漁業協同組合を中心に、行政と民間企業など多機関が連携し、サンゴ礁生態系保全の仕組みづくりに取り組んでいます。全国からの参加者を対象に、サンゴ苗の苗作り・植え付け体験、啓蒙活動を20年以上にわたり継続しています。

設立経緯

2000年代初頭、サンゴの白化現象や赤土等流出による問題が顕在化し、2002年に恩納村漁業協同組合が外部企業へ協力を呼びかけ活動を開始し、2004年には民間9社が加わり、正式に発足に設立されました。

主な実施内容

- サンゴの苗の植え付け、苗づくり体験(ダイバー/ノンダイバープログラム)
- 企業・個人向け植え付け体験プログラムの実施
- ビーチクリーン活動
- 幹事社による組織運営(2年ごとに体制更新)

事例
06



取り組みにより低減する環境への影響



関係者の合意形成を図るためのポイント

業界が抱える課題については地域によって考え方が異なることもあるが、時間をかけて議論していくことが重要。また、環境配慮にかかる利用ルール遵守やモラル向上のためには、法的拘束力のある規制を設けることも必要である。

地域で取り組むサンゴ礁保全活動の事例

事例
11



取り組みにより低減する環境への影響



関係者の合意形成を図るためのポイント

島内での合意形成に大きな問題はなかった。近隣のダイビング団体とは、かつてはブイ使用などに関して定期的な話し合いを行い、コミュニケーションを図っていた。

伊江島ダイビング協会

島全体でサンゴ礁を守るために。
漁協とともに保全に取り組む伊江島のダイビング団体

島内すべてのマリンレジャー事業者全員が漁協組合員である伊江島ダイビング協会。地元ホテルや支援企業等とともに、係留ブイの活用や水中清掃などを通じてサンゴ礁の保全に取り組んでいます。

設立経緯

ダイビングポイントに流れてきた大きな漁網を協力して撤去する必要があり、環境保全を協力して進めていくために目的に、2004年に設立されました。

主な実施内容

- 係留ブイ(水中ブイ)の運用
伊江漁協と調整・連携して、すべてのダイビングポイントに設置し、アンカーリングの影響回避を徹底。
- 水中の清掃活動大きな流れ網等があった場合に協力して撤去。
※その他として、個別事業者がサンゴのモニタリング(年1回程度)、サンゴ食巻貝の監視・駆除(適宜)

本部町ダイビング協会

本部地域の美しい海を守り、
利用者の安全と地域の未来を考える
ダイバーたちの団体

本部町内のダイビング事業者が連携し、本部半島及び周辺離島の海域の環境保全に取り組みながら、安全に持続可能なダイビングを行なうことを目的に活動しています(2025年6月時点で25ショップが加盟)。

設立経緯

ダイビングポイント適正利用ルール策定の必要性が高まったことや、オニヒトデ増加を契機にして駆除の協力体制を構築する必要性が高まったことで2005年に設立。

主な実施内容

- 係留ブイ(水中ブイ)の設置
- オニヒトデ、サンゴ食巻貝の監視・駆除
(サンゴ食巻貝は、駆除状況を協会内で情報共有)
- 海岸、水中の清掃活動
(海岸は年数回、水中は年1回程度)
- 地元漁業者との交流や、地域関係者との情報交換
- 定期的な研修会やセミナー



事例
12

取り組みにより低減する環境への影響



<その他のサンゴ保全活動>
・サンゴ食巻貝の監視等

関係者の合意形成を図るためのポイント

- 将来的な事業者増加を見据え、関係者と調整を進めて、団体の規模拡大を図っている。
- 漁協との間で懸念事項が生じそうな時には、各事業者が漁業者と対話することで、問題解消できるように努めている。

地域で取り組むサンゴ礁保全活動の事例

事例
09



取り組みにより低減する環境への影響



関係者の合意形成を図るためのポイント

自然体験ツアーが抱える矛盾を自覚し、人間を含む自然を広い視野で観察・行動しつつ関係者と認識を共有。変化する社会課題に向き合いながら、持続可能な観光の視点で社会貢献を考え発信していく。

石垣島アウトフィッターユニオン

島民も観光客も喜ぶ石垣島へ
観光と環境保全の両立をめざす
事業者たちの団体

沖縄県石垣島で自然体験ツアーを行う事業者からなる組織。安全対策技術の維持・向上、海岸清掃などフィールドの環境保全活動や啓発活動を行い、持続可能な観光の発展を目指して活動しています。策定したガイドラインを守り、良質な自然体験プログラムを提供しています。

設立経緯

石垣島の自然と生態系を維持・向上させ、島民に喜んでもらえるような事業を目指して以前から活動しており、平成29年4月に同名称に改名しました。

主な実施内容

- 環境保全ガイドライン策定、サステナブルツアー実施:
(自然環境への負荷を少なくするためのプログラムの進め方、フィールドの使い方、動植物への対応、環境保全の啓発活動)
【具体例】スノーケリング時のフィンの正しい使い方の指導
- インタープリテーション計画の策定
(特定の施設等を持たない事業者の組合としては初めて策定)
- サンゴ礁の適正利用、普及啓発などにかかる自然再生協議会への参加
- 海岸漂着ごみの清掃などフィールドの環境保全活動

北谷町海域利用事業所協力会

海を楽しみ、海を大切にする。
自然環境の保護・あり方を考え
沖縄の海を守る活動に取り組む団体

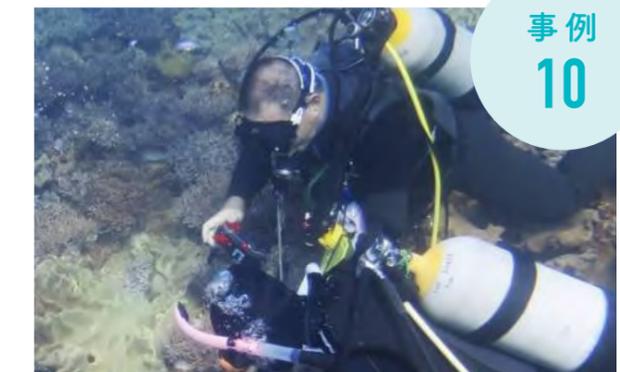
北谷町のダイビング事業所の総括組織として、よりよい海域利用環境づくりに取り組んでいる協力会です。北谷町漁業協同組合との協力、地域住民との共存を図り、ダイビングの事故防止、マナー向上、自然保護啓蒙活動を行っています。

設立経緯

北谷町漁業協同組合と宮城海岸における水面利用調整を目的とし、ダイビングエリアを指定するための協定書を締結したことをきっかけに発足しました。

主な実施内容

- 定期的な海岸清掃、海中清掃
- ダイビングエリア目印および係留ブイの維持管理
- オニヒトデ・サンゴ食巻貝の監視・駆除、稚ヒトデモニタリング手法の習得(トレーニング実施)
- 漁協との協定による「海面利用協力金」をゲストから任意で徴収(200円/日)し、環境保全活動等に活用



事例
10

取り組みにより低減する環境への影響



<その他のサンゴ保全活動>
・サンゴ食巻貝の監視等

関係者の合意形成を図るためのポイント

漁協関係者や漁業者との関係性を良好に保つことが重要。漁港での積極的な挨拶、ハーリーなど地域活動への参加など日頃のコミュニケーションを通して交流を深めていくことを大切にしている。

沖縄県内のマリンレジャー関連団体リスト

多様な機関から構成される団体

ダイビング事業者で構成される団体

その他マリンレジャー団体

エリア	団体名	SNS	備考	事例紹介
八重山諸島	石西礁湖自然再生協議会		具体事例の掲載、自然再生推進法に基づく団体 http://sekiseisyooko.com/	事例01
	竹富町西表島エコツーリズム推進協議会		具体事例の掲載、エコツーリズム推進法に基づく団体 https://iriomote-ecotourism.jp/	
	白保魚湧く海保全協議会	f	https://sa-bu.natsupana.com/	
宮古諸島	宮古島サステナブルツーリズム連絡会	f @	具体事例の掲載 https://miyako-island.blog/	事例02
	(一社)宮古島美ら海連絡協議会	@	具体事例の掲載 https://m-chura.com/	先行地域 Case 01
沖縄本島	チーム美らサンゴ	f @ X	具体事例の掲載 https://www.tyurasango.com/	事例05
	ぎのわんマリン協会	f @	https://gmca.okinawa.jp/	
	(一社)マリンレジャー振興協会		https://amp.okinawa/	
その他離島	伊江島の会			
	(一社)久米島の海を守る会	f		
	伊良部島・下地島サンゴ礁保全再生地域協議会		具体事例の掲載	事例04
八重山諸島	(一社)八重山ダイビング協会	f X	具体事例の掲載 https://yda-diving.com/	事例07
	竹富町ダイビング組合	f	具体事例の掲載	事例08
	八重山幻の島協議会			
沖縄本島	本部町ダイビング協会	f @	具体事例の掲載 https://www.motobu-diving.info/	事例12
	(一社)恩納村マリンレジャー協会	f @	具体事例の掲載 https://oma.or.jp/	先行地域 Case 02
	北谷町海域利用事業所協力会		具体事例の掲載 https://chatan-diving-cooperative.jimdofree.com/	事例10
その他離島	宜野湾ダイビング協会		https://ginowan-diving.com/	
	謝名瀬地区保全利用協定 締結事業者団体		具体事例の掲載、沖縄県保全利用協定に基づく団体 https://sustainable-tourism.okinawa/area/159/ https://eco-janabishi-okinawa9.webnode.jp/	先行地域 Case 04
	那覇市マリンレジャー振興協会	@	https://www.instagram.com/naha.mpa/	
その他離島	糸満ダイビング協会	f @	https://itomandiver.fc2.page/	
	伊江島ダイビング協会		具体事例の掲載	事例11
	(一社)渡嘉敷ダイビング協会	f	具体事例の掲載	事例13
その他離島	(一社)座間味ダイビング協会	@	http://zamami-diving.la.coocan.jp/	先行地域 Case 03
	あか・げるまダイビング協会		http://akageruma.blog.fc2.com/?cat=2&page=0	事例14
	(一社)沖縄県マリンレジャー事業者団体連合会	f @	具体事例の掲載 https://mbf.okinawa/	事例06
その他離島	ORIC沖縄県海洋レジャー事業協同組合		広域的な団体 https://www.oric.jp/a	
	NPO法人 美ら海振興会	f @	広域的な団体 http://www.churaumishinkokai.com/	
八重山諸島	石垣島アウトフィッターユニオン		具体事例の掲載 http://outfitter-union.com/	事例09
	白保サンゴ礁地区保全利用協定 締結事業者団体		沖縄県保全利用協定に基づく団体 https://sustainable-tourism.okinawa/area/148/	
	宮古諸島	保良クバクンダイ鍾乳洞保全利用協定 締結事業者団体	沖縄県保全利用協定に基づく団体 https://sustainable-tourism.okinawa/area/165/	
その他離島	沖縄県スキンドビング協会	@	広域的な団体 https://www.instagram.com/okinawa_skindiving_assoc/	

※備考欄に記載している各団体の公式サイトURLは令和8年1月末時点のものであり、今後変更される可能性がある。

MARINE LEISURE BUSINESSES

地域で取り組むサンゴ礁保全活動の事例

事例 13



取り組みにより低減する環境への影響



<その他のサンゴ保全活動>
・サンゴ食害生物の監視等

関係者の合意形成を図るためのポイント

関係者との話し合いを重ね、お互いに納得することを重視してコミュニケーションをとっている。
那覇などの島外から来往する事業者とは、利用範囲(北側のポイント)についてルール化した上で調整を図っている。

あか・げるまダイビング協会 世界一のサンゴの海を守るため、 慶良間海域の保全に取り組む協会

あか・げるまダイビング協会は座間味村漁業協同組合と協力し、慶良間諸島のサンゴ礁保全を行いながら地域に貢献することを目的に活動しています。18事業者が連携し、主に阿嘉島周辺のサンゴ礁を守りながら利用しています。

設立経緯

2002年のオニヒトデ大量発生時の駆除を目的に設立されました。

主な実施内容

- ダイビングポイントの係留ブイ(水面及び水中)
(場所によりタイプが異なる)
- ポイントごとに自主利用ルールを設けて持続的な利用を推奨
(アンカー禁止エリア設定、1週間当りの使用頻度の上限)
- オニヒトデ・サンゴ食害生物の監視と駆除及び調査
- 海岸・水中の清掃活動
(海岸清掃は島の周囲のビーチ等で実施)
- サンゴ礁モニタリング(リーフチェック)
(毎年12～1月頃に実施)

一般社団法人 渡嘉敷ダイビング協会

持続可能な渡嘉敷の海へ。
奉仕の心で海と文化を守り育む
マリンレジャー事業者の団体

地域の自然環境と文化の保全を目的に、適正なダイビング活動の普及に取り組み、持続可能な地域社会づくりにも寄与しています。奉仕の精神のもと、渡嘉敷村内のダイビング事業所、およびスノーケリング事業所が連携し、渡嘉敷の海を次世代へ繋ぐため日々活動しています。

設立経緯

以前より協会として活動していましたが、2012年3月に一般社団法人として設立されました。

主な実施内容

- 係留ブイ(水面ブイ)の運用(常時利用、メンテナンスは適宜)
- オニヒトデ・サンゴ食害生物の監視・駆除
- 水中の清掃活動(オニヒトデ・サンゴ食害生物の監視等と併せて年30回程度)
- サンゴや生物のモニタリング(リーフチェック等)
(現在は一部の事業所で実施しており、今後は協会全体での実施を計画中)

事例 14



取り組みにより低減する環境への影響



<その他のサンゴ保全活動>
・サンゴ食害生物の監視
・サンゴ礁モニタリング

関係者の合意形成を図るためのポイント

- 係留ブイは、設置場所などについて、漁業協同組合との段階的な調整(陳情→理事会→承認)を経て増設している。
- スノーケリング専門業者は、当協会への加盟を認め、スノーケリング専門の係留ブイ設置なども行い、他業種間の調整も図っている。